

# 1 はじめに

この再生ビジョンは、沿線地域に住む人々と旧可部線との関わりや、地域の地勢・産業・文化などの特性を活かしながら、線路敷や駅舎、駅前広場などの鉄道施設の利活用に向けた「基本的な方向性」を示したものです。この中で、可部線廃線敷を地域住民の生活環境の向上や持続的・発展的な地域振興はもとより、多様な人々との交流なども支える地域資源として再生するため、「基本的な方向性」に留まらず「具体の利活用策」についても取りまとめています。

地域資源としての可部線廃線敷の再生は、行政が主導的に取り組むものと、地域組織や活動グループなどの沿線地域が中心となって取り組むものがあります。行政は、こうしたビジョンの策定や基盤施設の整備とともに、地域の諸活動を促進するために支援する役割を担っています。

なお、ビジョンの策定に当たっては、平成16年6月、地域住民と行政で組織する「可部線廃線敷活用策検討委員会」を設置し、地域住民や幅広い市民からの多くの提案を検討してきました。

## 【再生ビジョンの発展的充実】

このビジョンの「具体の利活用策」については、ビジョン策定時点において、全ての内容を確定するものではなく、今後、「具体の利活用策」の実施に向けた諸課題への対応や、実施・管理運営主体などについて検討を深め、その内容を発展的に充実していきます。

# 2 廃線敷周辺の現状と課題

## (1) 可部線廃線敷周辺の現状



## (2) 取り組むべき主な課題

少子・高齢化への対応や、産業の活性化、観光振興、自然環境の保全など、地域全体としては様々な課題がありますが、廃線敷の利活用に当たっては、特に、可部線廃止という交通機能の喪失による、生活環境レベルの低下、地域コミュニティの衰退、来訪者の減少などへの対応が必要です。